

昭和村（群馬県）との友好交流協定の締結について

1 趣旨

横浜市と昭和村は、昭和 47 年に「横浜市赤城山 市民野外活動センター」（現「横浜市少年自然の家赤城林間学園」）を昭和村に開設して以来、子ども達を中心に相互に訪問し、交流を続けてきました。また、平成 16 年の新潟県中越地震をきっかけに「災害時における相互応援に関する協定」を締結するなど、絆を深め、様々な交流を続けてきました。

一方、今年度末に、赤城林間学園にあるキャンプ場の機能を廃止することとなりましたが、これまで培ってきた友好関係を礎に、さらなる交流を通じた地域の活性化に努めるなど、末永く友好交流を行っていくための協定を昭和村と締結します。

2 協定書(案)

横浜市と昭和村の友好・交流に関する協定書（案）

横浜市と昭和村は、昭和 47 年に「横浜市赤城山 市民野外活動センター」（現「横浜市少年自然の家赤城林間学園」）を昭和村に開設して以来、子ども達を中心に長きにわたり相互に訪問し、また、震災時には積極的に協力し合うなど、それぞれの風土・地域性を互いに尊重しあう中で、絆を深め、様々な交流を続けてきました。

両市村は、これまで培ってきた友好関係を礎に、将来にわたり、相互の理解と友情をより深め、交流を通じた地域の活性化に努め、お互いの一層の繁栄と幸福に寄与し、末永く友好交流を行っていくため、次の事項について協定を結びます。

- 1 両市村は、市民と村民が相互に活発な交流を進め、持続的な友好交流が行われるよう努める。
- 2 両市村は、環境・経済・農業・観光・文化・スポーツその他様々な分野において相互協力を行い、地域の活性化に努める。
- 3 両市村は、相互の理解により、お互いの繁栄と幸福がもたらされるよう努める。

3 協定の締結日及び場所

- (1) 締結日 平成 25 年 10 月 6 日（日） ※ 市長、村長による協定締結
- (2) 場 所 昭和村「第 16 回 昭和の秋まつり」会場（群馬県利根郡昭和村糸井 624）

「昭和の秋まつりについて」

1 概要

昭和村が「こんにゃく生産日本一」及び「やさい王国」であることを、村内外に広く PR するため開催する秋まつり

2 昨年状況

来場者数 延べ 2 万 8 千人、6 千食のこんにゃく大鍋、ステージショー、各種出店など

3 今年本市が参加

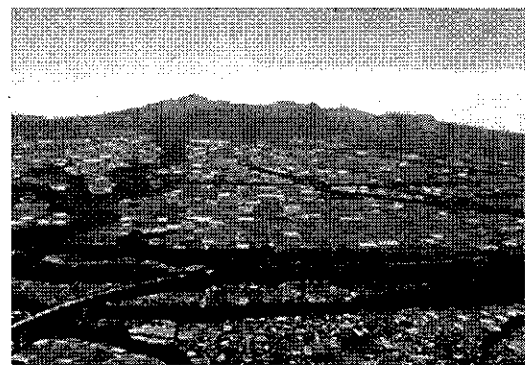
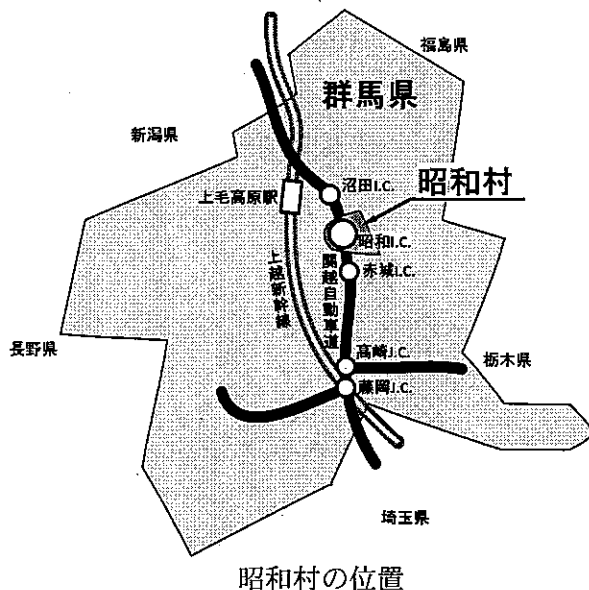
横浜市ブースの出展、横浜市消防音楽隊の演奏、公益財団法人横浜市緑の協会の出展など

1 本市と昭和村の交流経過

- 昭和 47 年度 本市施設である「横浜市赤城山市民野外活動センター」（現「横浜市少年自然の家赤城林間学園」）を開設
- 昭和 48 年度 「教育施設協力町村児童受入事業」により、昭和村の小学6年生全員を本市に宿泊招待（以降、毎年実施）
- 平成 16 年度 新潟県中越地震の際、赤城林間学園で被災者の受入
- 平成 17 年度 「災害時における相互応援に関する協定」を締結
- 平成 20 年度 昭和村が横浜開港記念バザーに初出店
- 平成 21・22 年度 職員人事交流の実施（相互受入）
- 平成 21 年度 昭和村が新横浜パフォーマンスに初出店
- 平成 24 年度 「やさい王国昭和村」フォトコンテストへの横浜市長賞・横浜市会議長賞の授与
- 平成 24 年度 昭和村が戸塚区民まつりに初出店
- 平成 25 年度末 赤城林間学園キャンプ場機能の廃止（予定）

2 昭和村概要

村 長	堤 盛吉（平成 24 年 5 月から 1 期目）
総面積	64.17 km ² <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 畑 : 25.55 km² 山林 : 10.04 km² 国有林 : 10.78 km² 宅地 : 2.06 km² 他 </div>
人 口（H25 年 4 月現在）	7,727 人（男性 : 3,814 人、女性 : 3,913 人）
世帯数（H25 年 4 月現在）	2,517 世帯
一般会計（H25 年度予算）	35.9 億円
産 業	河岸段丘を利用した農業 ・こんにゃく芋（生産量日本一） ・レタス等（首都圏の台所とも） 関屋工業団地の進出企業 ・キャノン電子(株) ・味の素ファインテクノ(株) など
村政施行	昭和 33 年（久呂保村と糸之瀬村が合併）



昭和村全景

●自動車の場合／高速利用
 関内から（170 km）2時間50分